府立西野田工科高等学校　定時制の課程
准校長　高橋　道生

令和７年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

個々に応じた教育活動を通して、社会で自立するための知識や職業観を備えた人物を育成する【スクールミッション】
　１　多様性を磨く　　【自分と他者を大切にする態度を養い、絶えず人権意識を見つめなおす生徒・教職員を育成する】
　２　キャリア教育　　【自らの生き方やキャリアについて考え、未来を切り開く力を養い、自立した社会人を育成する】
　３　チャレンジ精神　　【教育活動・学校行事等を通して、積極的にチャレンジする意識を高め、自己肯定感の向上につなげる】
　４　支援マインド　　【生徒が「学校に行きたい」「先生に相談したい」と思える、生徒に寄り添った学校（心の居場所）をつくる】

２　中期的目標

１　確かな学力の育成

（１）「わかる授業」をめざした授業改善への取組み、生徒の基礎学力を定着させ確かな学力を身に付けさせる。
　ア　授業内で生徒が「できた。わかった」と感じられるように、「生徒支援」と「教科指導」の両輪で授業づくりをめざす。
　イ　観点別学習状況の評価や授業アンケート、学校教育自己診断の結果を活用し、授業改善を進める。
　ウ　基礎学力の定着に向け、０限目授業・西野田クエスト（本校独自の取組み）を充実させる。
　　西野田クエスト：個々の学習レベル【グレード】に応じた学習課題を設定し、課題とテスト【ミッション】をクリアすると次のグレードに進み、さらに学びを深める総合的な探究の時間での取組み。
　※指標：学校教育自己診断の生徒アンケート「授業内容は分かりやすい」の肯定感を令和９年度まで 85%以上を維持する（Ｒ４：100%、Ｒ５：88.9%、Ｒ６：93.3%）

２　安全安心で魅力ある学校づくり

（１）個々の生徒への支援体制の強化と生徒の居場所づくり
　ア　生徒指導から生徒支援へのマインドセットを図り、支援Ｃｏを中心に生徒情報の共有やアセスメントを進め、専門人材（ＳＣ・ＳＳＷ等）や関係機関と連携しながら支援体制の強化を図る。
　イ　個別の教育支援計画等の支援ツールのブラッシュアップを図り、支援の接続が円滑に進められるよう、卒業後の進路先（大学・企業等）や機能統合校と連携を図る。
　ウ　全教職員により生徒との信頼関係に基づく一致協力した生徒支援体制を築き、学校が安心して登校できる居場所となるような学習環境を整備する。
　エ　不登校等の未然防止に向け、生徒情報の共有を積極的に行い、家庭や関係機関と連携しながら、課題を抱えた生徒に寄り添った支援・サポートを行う。
　　※指標：学校教育自己診断の生徒アンケート「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる先生がいる」の肯定率を令和９年度まで 85%以上を維持する（Ｒ４：92.3%、Ｒ５：72.2%、Ｒ６：93.3%）
（２）安全教育の充実と安心安全な教育環境整備の推進
　ア　外部機関と連携した交通安全・薬物乱用防止・防災防犯等の講習を行い、日ごろから生徒に安全教育について意識させるとともに、生徒の健康の保持増進にむけた取組みを推進する。
　イ　人権・多様性を尊重する支援教育・人権教育の推進に向け、校内研修を実施し、生徒・教職員の人権尊重の意識を高める。
　ウ　生徒の安全を優先する老朽化施設・設備等の修理・廃棄等を行い、教育環境の整備を推進する。
　　※指標：学校教育自己診断の生徒アンケート「いのちの大切さや社会のルールや人権について学ぶ機会がある」の肯定率を令和９年度まで 90%以上を維持する。
　　（Ｒ４：100%、Ｒ５：88.9%、Ｒ６：100%）
（３）令和９年度、今宮工科高校へ機能統合
　ア　再編整備対象校として、令和９年度末の機能統合まで、在籍生徒の教育環境を保障する。
　イ　機能統合校に継承する本校の特色やデータ、書類等の引継ぎに向け調整を進める。
　　※指標：学校教育自己診断の生徒アンケート「学校に行くのが楽しい」の肯定率を令和９年度までに 85%以上にする（Ｒ４：100%、Ｒ５：83.3%、Ｒ６：80.0%）

３　キャリア教育の推進と自己肯定感の醸成

（１）発達段階に応じたキャリア教育の推進
　ア　生徒の進路希望に応じた適切な情報を提供し、自己の適性や能力についての気づきを与え、進級（卒業）を意識させながら、自己決定・自己判断を促す。
　イ　総合的な探究の時間等を活用し、系統立てたキャリア教育を進め、生徒が自らのライフプランやキャリアデザインについて考える場の充実を図る。
　　※指標：学校教育自己診断の生徒アンケート「将来の進路や生き方について考える機会かある」の肯定率を令和９年度まで 90%以上を維持する。
　　（Ｒ４：100%、Ｒ５：94.4%、Ｒ６：93.3%）
（２）特別活動等を通してチャレンジ精神・自己肯定感を醸成する
　ア　短い部活動時間であっても、効率よく活動し定時制通信制大会等へ積極的に参加する。また、部活動を通して集団の規律のあり方などを理解させる。
　イ　学校行事等の校内外の活動を通してチャレンジ精神や他者と関わる力を養うことで、生徒の達成感や自己肯定感を高める。
　　※指標：学校教育自己診断の生徒アンケート「先生は、学校生活で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定率は令和９年度まで 90%以上を維持する。
　　（Ｒ４：100%、Ｒ５：94.4%、Ｒ６：100%）

４　校務の効率化と働き方改革の推進

（１）働きやすい職場環境づくり及び教職員の健康管理
　ア　ＮＯクラブデー、ＮＯ残業デーの実施及び学校閉庁日の設定やゆとり月間、週間などを積極的に活用し、教職員の勤務時間の管理を行い、時間外在校等時間の減少を図る。
　　※指標：全教職員の年間１人当たりの平均時間外在校等時間を令和９年度までに年間 50 時間未満にする。（Ｒ４：54 時間 00 分、Ｒ５：68 時間７分、Ｒ６：49 時間２分）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和　　年　　月実施分］	学校運営協議会からの意見

府立西野田工科高等学校　定時制の課程

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[Ｒ６年度値]	自己評価
１　確かな学力の育成	（１）「わかる授業」をめざした授業改善への取組み、生徒の基礎学力を定着させ確かな学力を身に付けさせる。 ア　「生徒支援」と「教科指導」の両輪で授業づくり	ア　生徒の特性や学習状況に鑑み、ユニバーサルデザインを意識した教材や教授法に工夫し、全ての生徒にとって「わかる授業」をめざす	ア　生徒向け学校教育自己診断の項目「授業内容はわかりやすい」の肯定率 90%以上を維持する。[93.3%] ・教員向け学校教育自己診断の項目「教育実践に役立つ研修や研究に取り組める体制が整っている」の肯定率 80%以上をめざす。[75%]	
	イ　指標を活用した授業改善	イ　観点別学習状況の評価と授業アンケートや学校教育自己診断を活用することにより、ＰＤＣＡサイクルを確立し、授業改善を推進する。	イ　生徒向け学校教育自己診断の項目「自分が興味・関心のもてる教科や科目がある」の肯定率 80%以上にする。[66.7%] ・授業アンケート結果、２回の平均値 3.65 をめざす [3.62]	
	ウ　基礎学力の定着	ウ　基礎学力定着のために０時限目授業と西野田クエストの充実発展を図る。	ウ　西野田クエストのグレードアップ率（※１）70%以上をめざす。[68.8%] ※１：課題とテスト（ミッション）をクリアし、学習レベル（グレード）が上がった生徒の割合	
２　安全安心で魅力ある学校づくり	（１）個々の生徒への支援体制の強化と生徒の居場所づくり ア　支援体制の充実	ア　支援Ｃｏを中心に生徒情報の共有やアセスメントを進め、専門人材（ＳＣ・ＳＳＷ等）や関係機関と連携した支援体制をつくる	ア　教員向け学校教育自己診断の項目「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」の肯定率 80%以上を維持する。[75%]	
	イ　支援の接続に向けて	イ　個別の教育支援計画等のブラッシュアップを図り、卒業後も支援の接続が円滑に進められるよう進路先や関係機関と連携する	イ　支援に関する校内研修を年３回以上実施する。[４回]	
	ウ　生徒の居場所づくり	ウ　生徒一人ひとりに寄り添い、教員と生徒との信頼関係を築き、生徒が学校に行きたいと思える学校づくりを行う。	ウ　生徒向け学校教育自己診断の項目「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる先生がいる」の肯定率 80%以上を維持する。[93.3%]	
	エ　不登校等の未然防止	エ　不登校等の未然防止に向け、生徒情報の共有を積極的に行い、家庭や関係機関と連携を進める。	エ　教員向け学校教育自己診断の項目「生徒指導の方針について、教員間で十分にコンセンサスが取れている」の肯定率 70%以上をめざす [60%] ・教員間の情報共有会議や専門人材が関わるケース会議を年間 20 回以上行う。[37 回]	
	（２）安全教育の充実と安心安全な教育環境整備の推進 ア　安全教育の充実と健康の保持推進への取組み	ア　地域の公的機関等の外部人材を活用した教職員・生徒への研修や講習を実施する。 ・生徒の健康の保持推進に向け、主体的に情報提供等を行う。	ア　外部機関等との連携による避難訓練や講習、校内研修を年３回以上実施する。[３回] ・「保健だより」等の生徒・保護者への情報発信を 20 回以上行う。[18 回]	
	イ　人権教育の推進	イ　人権尊重の意識を持って、生徒対応や教員間の関係性を保てる学校環境を維持する。	イ　教員向け学校教育自己診断の項目「体罰やセクシャルハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢に基づいた生徒指導が行われている」の肯定率 90%以上を維持する [95%]	
	ウ　教育環境の整備	ウ　安全安心な学習環境とするための学校環境整備	ウ　環境整備の実施（雨漏対策、薬品廃棄等）【新規】	
	（３）令和９年度、今宮工科高校へ機能統合 ア　学習環境の保障	ア　在校生徒が卒業するまで、現在の学習環境を維持する。	ア　生徒向け学校教育自己診断の項目「学校に行くのが楽しい」の肯定率を 85%以上にする。[80%]	
	イ　機能統合校との連携	イ　機能統合校と本校の特色等の継承に向けた調整を進める	イ　教育庁・機能統合校とのＰＴ会議を５回以上実施する。【新規】	
３　キャリア教育の推進と自己肯定感の醸成	（１）　発達段階に応じたキャリア教育の推進 ア　進級（卒業）に向かうためのキャリア教育	ア　生徒の進路支援を充実させ、全員の進路が決定した状態で卒業させる。 ・進級（卒業）に向かうためのキャリア教育を実践する。	ア　卒業時の進路未決定者０人を維持する。[０人] ・進級（卒業）率 90%以上をめざす。[84.2%]	
	イ　系統立ったキャリア教育の推進	イ　系統立てたキャリア教育の一環として総合的な探究の時間やホームルームを活用する。	イ　外部連携したキャリア教育関連の講習会・会社訪問など３回以上を維持する[３回] ・生徒向け学校教育自己診断の項目「将来の仕事や生き方について考える機会がある」の肯定率、80%以上を維持する。[93.3%]	

	（２）特別活動等を通してチャレンジ精神・自己肯定感を醸成する ア　部活動へのチャレンジ イ　学校行事等へのチャレンジ	ア　部活動時間が短い中であっても、効率よく活動し、定時制通信制大会等へ積極的に参加する。 イ　達成感、自己肯定感を高めるために、学校行事等を通して、チャレンジ精神や他者と関わる力を養う。	ア　生徒向け学校教育自己診断の項目「先生は、学校生活で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定率 90%以上を維持する。[100%] イ　生徒向け学校教育自己診断の項目「学校行事が楽しく行われるように工夫されている。」の肯定率 90%以上を維持する。[93.3%]	
４　校務の効率化と働き方改革の推進	（１）働きやすい職場環境づくり及び教職員の健康管理	ア　ＮＯクラブデー、ＮＯ残業デーの実施及び学校閉庁日の設定やゆとり月間、週間などの積極的な活用	ア　全教職員の年間１人当たりの平均時間外勤務時間について年間 50 時間未満にする。[49 時間２分]	